
言語研究センター共同研究

学術場面における日本語の話し言葉の分析 —大学学部生対象上級日本語シラバスの構築に向けて—

富谷 玲子・高木南欧子

大学の学術場面における日本語の話し言葉に関する関心は最近高まりつつあるが、いまだ十分に解明されているとはいえない。本研究では、前年度に引き続き、少人数のグループ内での相互作用を伴う協同学習場面における日本語の話し言葉の特徴と、スピーチにおける日本語の話し言葉の特徴について、日本語母語話者の大学生と学部留学生の話し言葉データを構築し分析を行った。語彙と文型の点では日本語母語話者と留学生の間に大きな違いがなく、フィラー、リペア、ポーズなどパラ言語面において違いが見られ、それが話し言葉の「分かりやすさ」を決定付ける要因の一部となっていることが明らかになった。2008年度には、この結果を応用し、学術場面における日本語の話し

言葉の教育を、留学生と日本語母語話者の学生を対象として行った。「分かりやすさ」の要因を明示的に提示することによって、学部留学生も日本語母語話者の学生もその特徴を理解することができた。運用面では、日本語母語話者では短期間のうちに改善が見られたのに対し、学部留学生の場合は顕著な改善は見られず、「分かりやすさ」の要因を習得するためには何らかの手当てが必要であることが明らかになった。その具体的方策は今後の課題とする。

